

コールセンター Q&A

Q112

全国的に ALP(アルカリホスファターゼ)の検査方法が変更になると聞きましたが、経緯と影響度合いを教えてください。

A112

現在、日本で測定している ALP(アルカリホスファターゼ)の試薬は、JSCC(日本臨床化学会)常用基準法が用いられています。

この試薬は、ALP のアイソザイムである肝、骨、小腸、胎盤に均一に反応する特徴があり、従来から以下の問題点が指摘されていました。

<現行試薬の問題点>

- ①血液型 B、O 型の分泌型の患者では、疾患と無関係に食事後（特に高脂肪食）に小腸型 ALP が上昇し高値を示す。
- ②日本独自の測定方法であり、国際的な治験に参加できない。

上記問題点を踏まえて、JSCC は、2020年4月1日より1年間の移行期間を設けて、国際標準試薬である IFCC(国際臨床化学連合)測定法への変更を決定しました。

この IFCC 測定法試薬では、小腸型 ALP の反応を抑えるため従来の基準範囲が大きく異なりますので注意が必要です。(表1参照)

<表1>

	(新)IFCC 測定法	(現)JSCC 測定法
優位な反応由来	肝・骨	肝・骨・小腸・胎盤
基準範囲(U/L)	38~113	106~322

*当検査センターでは、2021年4月1日より IFCC 測定法へ変更予定です。

担当 検査科

*ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

<広報委員> 谷敷 圭美 / 石田 啓 / 橋本 健 / 石田 有里 / 大田 彩咲日